

令和8年度 品川区立伊藤学園 学校経営計画

校長 野口 大和

法令・学習指導要領

品川区基本構想 品川区長期基本計画
品川区教育大綱

伊藤学園のミッション

『自律する力を身に付けた、他者を尊重し、社会や地域に貢献する人材を育成する』

学校の行動指針

『挑む』『拓く』『和』

本校の強み

義務教育学校 品川コミュニティ・スクール

品川区教育振興基本計画 品川区教育ビジョン

「子どもたちが笑顔でつながる共生社会」

～みんなのウェルビーイングを目指して～

- 一人ひとりの資質・能力を育成する教育（レジリエンス、ウェルビーイング教育）
- 誰一人取り残さないきめ細やかな教育（ダイバーシティ&インクルージョンの実現）
- 学びを支える教育体制の確保（個別最適で協動的な学びを実現する環境整備）

伊藤学園 教育目標

- 自学求道 かしくく 自ら学び生きる道を切り開く人を育成する
- 切磋琢磨 なかよく 互いに磨き合いながら生きる人を育成する
- 至誠一貫 ねばりぶよく 忍耐強く誠実に責任を果たす人を育成する

学校経営の基本理念

- 法令等を遵守し、教育課程に基づいた組織的・計画的な学校経営を行う。
- 品川コミュニティ・スクールとして、地域の発展に寄与する学校経営を行う。
- PDCAサイクルに立脚した開かれた教育を行う。
- 課題解決に挑み、子どもの未来を拓くために、改善を常とする学校経営を行う。
- 義務教育学校9年間を意識した、切れ目のない学校経営を行う。

品川区教育委員会 教育目標

品川区教育委員会は、誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向け、子どもたちが持続可能な社会の担い手として、心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かに成長し、希望に満ちた未来を自ら切り拓いていけるよう、以下の教育目標を定める。

- 豊かな心を育み、人権を尊重するための教育の推進
- 確かな学力の育成
- グローバル社会における人材の育成
- 学校・家庭・地域の連携・協働による教育力の向上
- 生涯学び、活躍できる環境の整備

目指す学校像

- 子どもが、義務教育9年間を通して、豊かな人間関係の中で自他の成長を実感し、共に未来を切り拓く学校
- 保護者、地域の願いや期待の実現に努める学校
- 教職員が、率先垂範して常に学び続け、教育活動に挑む学校
- 子ども、保護者、地域、教職員がウェルビーイングで結ばれている品川コミュニティ・スクール
- 施設の安全管理、健康管理が行き届き、子どもが快適に生活できる学校

目指す子ども像

- 自ら進んで学び、努力を惜しまず向上できる子ども（自律 自学求道 かしくく）
- 公德心に立った礼節をわかまえ、心豊かに様々な人と関わりながら共に生きる子ども（尊重 切磋琢磨 なかよく）
- 心身を鍛え、困難に負けずに生き抜く、たくましい子ども（貢献 至誠一貫 ねばりぶよく）

求める教職員像

- 教育公務員の自覚と奉仕の精神をもち、子ども一人一人の成長を生きがいとする教職員
- 改善を常とし、不断の努力を惜しまない、凡事を徹底する誠実な教職員
- 地域と共に歩み、地域に貢献する教職員
- ライフ・ワークバランスを図り、自己の成長を追い求める教職員
- コンプライアンスを重視、実践する教職員

中期的目標と方策（令和8年度～10年度）

1 学力の向上（自律した深い学びの育成）

（現状）自分から進んで学習することができた 85%
（指標）①自分から進んで学習することができた 90%

（方策1）自律した深い学びと基盤となる5つの資質・能力の育成

- 各教科の基礎的・基本的な知識・技能の習得
- 各教科の見方・考え方を基にした探究的な見方・考え方の育成
- 多様な他者との対話やコラボレーション（協調）による学びの推進
- タブレット端末などを活用した系統的な情報活用能力の育成

自分で工夫して学習することができた（未測定）

②自分で工夫して学習することができた 85%

（方策2）自律した学びを支える3つの学びの視点と2つの学習環境の整備

- 市民科一貫プランにおける探究活動「伊藤学探究いとたん」の推進
- 多様な人・地域・社会と関わり、実体験から学ぶ活動の推進
- 自律した学びを深めるデジタル学習基盤の整備及び教師による支援の工夫
- 第3～9学年における段階的な教科担任制の導入

2 豊かな人間性と社会性の育成

（現状）学校生活における責任感、協調性、貢献力の成長実感 96%
（指標）①学校生活における責任感、協調性、貢献力の成長実感 97%

（方策1）自治的な活動による子どもの責任感、協調性、貢献力の育成

- 自己の役割と責任を重視した学級・学年経営、学校運営の推進
- ウェルビーイングを基盤とした学級・学年経営、生徒会活動の推進
- 子ども主体の係活動や各種委員会、学校行事運営委員会の推進

他学年の子どもと積極的に交流することができた 82%

②他学年の子どもと積極的に交流することができた 85%

（方策2）異学年交流や地域を生かしたウェルビーイングの涵養

- ウェルビーイングの視点を生かした異学年交流や学校行事等の推進
- 多様な異学年交流によるリーダーシップ、フォロワーシップの育成
- 地域巡りや職場体験など、大井地区をフィールドとした学習活動の促進

3 個人と学校・社会のウェルビーイングを涵養する支援体制の充実

（現状）学校のウェルビーイング度 子ども91%、保護者83%
（指標）①学校のウェルビーイング度 子ども95%、保護者85%

（方策1）一人一人の特性や課題に応じた相談体制と支援体制の充実

- 相談機会の多様化の促進と一人一人の特性の把握と専門的な分析
- 特別支援に係る教育及び相談の充実と医療的ケア等の支援体制の整備
- 不登校及び別室登校等の子ども・家庭への支援体制の充実

「いじめをしない、させない、絶対に許さない」意識や行動の育成 96%

②「いじめをしない、させない、絶対に許さない」意識や行動の育成 97%

（方策2）いじめを絶対に許さない 子どもの自己指導能力の育成

- いじめの未然防止教育（SOSの出し方、いのちの大切さなど）の推進
- 「いじめ予防プログラム」による未然防止支援システムの活用と実践
- いじめの早期発見、迅速な対応ができる組織づくりの構築

今年度目標と重点取組（令和8年度）

1 学力の向上（自律した深い学びの育成）

（指標）①90% ②85%

（重点1）教師の教え込みにならない、子どもの自律した深い学びを育てる。

- ・対話やコラボレーションなどの協動的な学びの場を作り、子どもの深い学びを引き出す。
- ・学習プロセスに重点を置いた個別最適な学びを進め、子どもの自律した学びを引き出す。（重点2）探究活動「伊藤学探究いとたん」による探究サイクルの習得
- ・社会のウェルビーイングを考えた課題設定を行い、探究サイクルに沿って探究を進める。
- ・生成AIを取り入れた情報活用能力の系統的な学習カリキュラムを開発する。

2 豊かな人間性と社会性の育成

（指標）①95% ②85%

（重点1）自治的な活動を段階的に取り入れ、責任感、協調性、貢献力を育成する。

- ・当事者意識をもたせた係活動や委員会、学校行事運営を推進する。
- ・責任感、協調性、貢献力の育成を目指し、学級・学年経営、生徒会活動を推進する。（重点2）異学年交流を系統性をもって推進し、学校全体のウェルビーイングを涵養する。
- ・異学年交流による子ども主体の学習活動及び学校行事を系統的に拡大する。

3 個人と学校・社会のウェルビーイングを涵養する支援体制の充実

（指標）①子ども95%、保護者85% ②97%

（重点1）一人一人の特性や課題に応じて、相談体制と支援体制を充実する。

- ・多様化した相談機会の整備を図り、個の特性の把握と専門的な分析を組織的に行う。
- ・前期課程にも教育相談委員会を拡大し、子どもや保護者の居場所づくりを充実する。（重点2）「いじめを絶対に許さない」という、子どもの自己指導能力を育成する。
- ・「いじめ予防プログラム」による授業や取組を効果的に活用する。